

## 中華民国で過疎型スマートコミュニティ構築事業及びZEB構想を紹介

—スマートシティ及び建築スマート化応用発展国際検討会議に出席—

戸田建設(株) (社長：今井雅則) は12月5日(木)、中華民国(台湾)の交通部国際会議場(台北市)で開催された「スマートシティ<sup>※1</sup>及び建築スマート化応用発展国際検討会議」(主催：内政部建築研究所<sup>※2</sup>)に出席し、当社が取り組んでいるスマートコミュニティ構築事業やZEB<sup>※3</sup>構想を紹介しました。

内政部建築研究所は、国内法整備や政策策定の他、海外の建築制度や技術の研究を行う機関です。近年は地球温暖化防止や環境保護などの取り組みも進めており、スマートシティやZEBの実現に向けた取り組みを強化する目的として「スマートシティ及び建築スマート化応用発展国際検討会議」を今回初めて開催されました。

内政部建築研究所では、特にICTの融合を図った都市モデルの建設に力を入れており、以前より日本の事例や計画に注目していたこともあって、先進的な取り組み事例として三井不動産(株)及び当社が会議に招かれ講演を行ったものです。三井不動産(株)が「柏の葉キャンパスシティプロジェクト」を、当社が「暮らし易いまちづくりを目指すZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)への挑戦とスマートコミュニティへの取り組み」をテーマにそれぞれ講演を行いました。

当社の講演では、福島県内で取り組んでいる「川俣町過疎型スマートコミュニティ構築事業」及び、当社が2020年までに実現を目指している「ZEBへの取り組み」などを環境事業推進企画管理課 森一紘課長が紹介しました。スマートコミュニティについては中華民国の政府関係者やメディアから、ZEBに関わりのある異業種連携による技術開発については、建設団体やICTメーカーから多くの質問や意見が寄せられました。特にZEBにエネルギーハーベスティング技術<sup>※4</sup>を採用した「自己発電型無線照明制御スイッチシステム」は、台湾での導入事例が無いため質問が集中しました。海外へのスマートコミュニティ事例の紹介は当社として今回が初めてとなります。

また、同時に開催されたパネル展示会(終日別フロアで開催)では、多くの大学・企業による「建築スマート化」をテーマに取り組み事例やアイデアが展示され、当社の取り組みの紹介もあわせて紹介されました。国際会議とパネル展示会とあわせて約200名の方が公聴、見学されました。来場された各企業と政府関係者による意見交換会も開催され、当社も中華民国(台湾)企業との意見交換を行いました。

戸田建設では、スマート化技術の発展を目指し今後も中華民国(台湾)企業との技術交流を行っていきたくと考えています。



写真1 講演の様子



写真2 講演会場 全景

- ※1 スマートシティ：スマートコミュニティと同義語で、スマートグリッドやエネルギーマネジメントシステムによる消費エネルギーの最適化を行い、交通や公共サービスなどを統合的に管理・制御する環境配慮都市のこと。
- ※2 内政部建築研究所：内政部は日本の総務省に該当し、中華民国（台湾）の行政院に属する内政を所管する最高行政機関である。建築研究所は建築を所管する公務機関。
- ※3 ZEB：ゼロ・エネルギー・ビル。年間での一次エネルギー消費量が正味（ネット）でゼロ又は概ねゼロとなる建築物。
- ※4 エネルギーハーベスティング技術：振動、熱、光など、身の回りにある普段失われている僅かなエネルギーを回収し電気や熱に変換する技術。